所報　平成3年9月15日創刊　令和元年9月15日発行・毎月1回15日発行・No. 322
一般社団法人 協同総合研究所 ISSN 1344-7300

協同の發見

きょうどうのはっけん

第322号
2019.9

特集 学びの多様化 ー共に学びあう関係づくりー

◎ 森 康行　『こんばんは』から『こんばんはⅡ』～私が出会った夜間中学の学び～
◎ 保坂 展人×古村 伸宏　多様な学びをめぐる「働き方改革」と「学び方改革」
◎ 清水 武徳　APDECアジア・太平洋デモクラティック教育大会（オーストラリア）参加報告
◎ 渡辺 伽奈/相良 孝雄
生徒の生活まるごとを捉える学習支援－生徒・講師・地域社会が協同でつくる学びの場－

■会員だより
高橋 巌　これまでの調査研究と問題意識

■ワーカーズコープで働く若手リーダー紹介（Vol.29）
高橋 健太　安全で、働きがいのある職場を目指して

■巻頭言
寺脇 研　生涯学習社会の実現を目指して

一般社団法人 協同総合研究所
JAPAN INSTITUTE OF CO-OPERATIVE RESEARCH

題字／藤原 桂州

協同の發見

第322号 2019.9

特集　学びの多様化－共に学びあう関係づくり－

目 次

巻頭言
生涯学習社会の実現を目指して …… 2
寺脇 研（京都造形芸術大学客員教授/協同総研副理事長）

特集　学びの多様化－共に学びあう関係づくり－
• 特集にあたって …… 4
相良 孝雄（協同総合研究所　事務局長）

• 『こんばんは』から『こんばんはⅡ』～私が出会った夜間中学の学び～ …… 6
森 康行（映画監督）

• 多様な学びをめぐる「働き方改革」と「学び方改革」 …… 16
保坂 展人（世田谷区長/教育ジャーナリスト）×古村 伸宏（協同総研理事長/日本労協連理事長）

• APDECアジア・太平洋デモクラティック教育大会（オーストラリア）参加報告 …… 36
清水 武徳（センター事業団北陸信越事業本部事務局次長/上田事業所所長/会員）

• 生徒の生活まるごとを捉える学習支援
－生徒・講師・地域社会が協同でつくる学びの場－ …… 42
渡辺 伽奈（ワーカーズコープちば　らいふあっぷ習志野
子どもの学習・生活支援フリー★スタディ習志野　責任者）
インタビュー・分析・編集　相良 孝雄（協同総合研究所　事務局長）

会員だより
これまでの調査研究と問題意識 …… 54
高橋 巌（日本大学生物資源科学部食品ビジネス学科教授/協同総研理事）

ワーカーズコープで働く若手リーダー紹介（Vol.29）
安全で、働きがいのある職場を目指して …… 57
高橋 健太（センター事業団　本部　総務部/Le bon Travail 料理長）

労協連だより　髙成田 健 …… 64
研究所だより　相良 孝雄 …… 71

巻頭言

生涯学習社会の実現を目指して

寺脇 研（京都造形芸術大学客員教授／協同総研副理事長）

今号の特集は「学びの多様化」だという。

これこそ、わたしが30年以上にわたって取り組んできたテーマのつもりである。

首相直属の法定諮問機関として1984年から３年間にもわたって議論を行ってきた臨時教育審議会は、87年に最終答申をまとめる。そこに打ち出されたのは、全く新しい「生涯学習」という考え方だった。これからの日本は「いつでも、どこでも、誰でも学べる」生涯学習社会を目指す、との提言は、わたしにとって感動的でさえあったのを憶えている。

もともと中学生になった頃から、大学受験対策を頂点とする詰め込み型の一方的な教育に強い違和感を覚えていた。文部省（当時）を志望したのも、そうした日本型教育システムを変える仕事がしてみたいとの願いが胸の裡にあったと思う。だが、役所組織の末端にいるうちは、なかなかそれが叶わない。旧態依然とした教育行政から抜けきれない文部省に、絶望すら感じていた。

＜教育＞という視点を180度ひっくり返して＜学習＞に主体を置き、学校でだけ学ぶのでなく卒業した後も生涯にわたってさまざまな場面で学び続けるという生涯学習の発想は、わたしに大きな目標を与えてくれた。この仕事を担当したいと願ったら、他には誰も希望者がおらず、88年４月から初代の担当課長補佐に任命されたのである。ライフワークとなる生涯学習との出会いだった。

以来、「いつでも、どこでも、誰でも学べる」ように学びの多様化を進めた。＜教育＞の本丸・学校に手を付けるのは、すぐには難しい。まずは社会教育分野だ。公民館、図書館などの社会教育施設を、＜教育＞の場から＜学習＞の場へと転換する。公民館、図書館の大半は、月曜から金曜の昼間と土曜の午前中しか開館していなかったのを、土日、夜間も開く現在の形に移行させた。学習する側である利用者の便宜を考えれば当然のことである。公民館の講座を住民のニーズに応える内容にする方向へ持って行ったのも同じ理由だ。

続いて本丸の外堀を埋める。運動場、体育館、プールなどの学校施設が使われていない時間帯に地域住民へ使用を許す学校開放事業を進め、大学には社

会人入学や公開講座の進展を促した。放送大学の全国展開は、「いつでも、どこでも、誰でも」大学レベルの学びにアクセスできる状況を作りだしている。

次は内堀だ。学校週五日制や放課後事業の導入で、子どもたちは家庭や地域という学校以外の場所で自分の興味・関心に応じた学びの可能性を広げた。また、学校に行くのが苦しい場合には不登校であってもいいと認める一方、フリースクールを認知するとともに、定時制高校の昼夜開講、広域性通信制高校などの便宜を図って学びの多様性を担保していく。半面で、中卒認定試験、高卒認定試験を容易に受けられるようにして、いわゆる「やり直し」の機会を保障し、セーフティーネットを張れたのも大きい。

それでようやく本丸に手を着けたのが、小学校2002年、中学校03年、高校04年度実施の学習指導要領である。完全学校週五日制に入るとともに、ひとりひとりが主体的に行う探究型学習を実現した「総合的な学習の時間」の導入、習熟度別授業の容認など、可能な限り個々の興味・関心、能力・適性に合わせることを目指した。教育する学校や教師の都合より、学習する子どもの主体性を尊重する。すなわち、学校の体質そのものを＜教育＞の場から＜学習＞の場に変化させようというものだった。

さすがに本丸は、当初難攻不落だった。生涯学習の考え方は「ゆとり教育」とのレッテルを貼られ、学力低下批判に晒される。その後の展開はご存知の通りだ。先陣を切ったわたしは「討ち死」し、学校を＜学習＞の場にする試みは一頓挫した。しかし、文部科学省はその旗印を降ろさず、20年近くをかけて初心を貫徹したのである。すなわち、来年度から小学校、21年度から中学校、22年度から高校で実施される次期学習指導要領は、「主体的、対話的で深い学び」を前面に打ち出した。これこそ、学習者主体であり、「競争」から「対話」に切り替えた画一競争主義との決別であり、詰め込み暗記の浅い学びからの脱却を明確にしたものなのである。

臨時教育審議会答申からおよそ30年、ようやく生涯学習の理念に立った多様な学びが実現しつつある。しかし、安心してしまってはいけない。この社会は、経済偏重主義や貧富の二極分化の結果、貧困層が学びどころか生存さえ危ぶまれる事態に追い込まれているではないか。

真の生涯学習社会を完成させるためには、こうした問題を解決する必要がある。特に、子どもの生存権を守り、貧困から救うことは急務だ。わたしは次の目標として、このことを世間に訴えたいと、このほど『子どもたちをよろしく』という映画を製作した。来年２月公開予定のこの作品について、本誌を手にする仲間の皆さんに改めてお知らせしたいと思っている。

協同総合研究所は、労働者、市民が自らの力で自律的に仕事と生活の豊かさを求める活動を支援するシンクタンクです。わが国にも「大量失業の時代」が到来する中で、労働者、市民が自主的に仕事おこしをする労働者協同組合（ワーカーズコープ）への注目が増しています。研究所は、わが国唯一の「労働者協同組合」に関する専門研究機関です。

研究活動をネットワークし、蓄積された情報を資源として支援する「協同の發見」を会員のみなさまに毎月お届けいたします。

●今月の表紙

アジア・太平洋デモクラティック教育大会最終日のクロージングセレモニーの様子。出席者が集まり、芸術プログラムでつくった曼荼羅の前で、輪になって学びを共有し、挨拶をしながら、抱き合って終了した。特集全体から、学びの環境として３つのD「Diversity：多様性」「Dialogue：対話」「Democracy：民主主義」が担保されることが必要だと感じた。

所報　協同の発見　９月号（通巻 322号）

2019年9月15日（毎月1回15日発行）
編集・発行／一般社団法人 協同総合研究所
代表／古村 伸宏
〒170-0013 東京都豊島区東池袋1-44-3 池袋ISPタマビル7F
Tel 03（6907）8033　Fax 03（6907）8034
Email　kyodoken@jicr.org　　URL　http://jicr.org/
郵便振替口座　00140-7-552949

定価 1,300円（本体 1,204円）